

## 1 学校教育目標

**みんなが幸せな学校 ～自主・自律・共生をめざして～**

「みんな」とは、誰一人取り残さないという信念のもと、すべての子供たちをあらわしています。さらに、子供たちだけでなく、教職員や保護者、地域の方々も含んでいます。

「幸せな学校」とは、子供たちが「明日も学校に行きたい」と思える魅力的な学校、先生たちが「明日も一生懸命に働きたい」と思える学校、そして、みんなが「安心安全に過ごせる」学校のことです。そんな学校を保護者、地域の方々と連携・協働しながら目指していきます。

## 2 めざす姿

## (1) めざす学校像 — 信頼される学校 —

- 全ての子供に居場所がある学校
- 保護者が安心する学校
- 教職員が働きがいを感じる学校
- 地域が誇りに思う学校

## (2) めざす子供像 — 自主・自律・共生 —

- 自分で考え行動する子（自主）
- 自分の心と体をコントロールできる子（自律）
- 自分と他人を大切にする子（共生）

## (3) めざす教職員像 — 力を合わせて児童を育てる教職員集団 —

- 子供を主役にできる教職員
- 謙虚に学び続ける教職員
- 仲間・保護者・地域と協働できる教職員
- 仕事の効率化をめざし自分を豊かにできる教職員

## 4 今年度の重点目標と重点項目

## (1) 確かな学力

## ① 学習指導の充実・工夫改善

- 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点を意識し、学びを人生に生かせるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善に取り組む。
- どの子もわかる「わかる授業」づくりをするために、生徒指導の機能を生かすとともに、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりや環境づくりに取り組む。「話し方名人」、「聞き方名人」の活用
- ICT（特にタブレット）の活用を進める。

【市川市重点項目】児童生徒の学習用端末の活用推進

- 児童が、学ぶ楽しさを味わい、学ぶ意欲を向上できるよう、常に授業の工夫・改善を行う。
- 算数科の研究を軸に、研究主題にせまる。各教科で、基礎的・基本的な知識技能の習得とそれを活用する力をバランス良く育成するための指導を充実させる。  
(朝学習・漢字道場週間等)
- 学力や学習状況・生活習慣等のアンケートを実施し、実態に基づいた指導を行う。

○探究的な学習に子供たちが主体的・協働的に取り組めるよう学習内容を工夫し、積極的に課題解決をしようとする態度を養う。また、課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する探究的な学習のサイクルを繰り返していく。

#### 【市川市重点項目】探究的な学びの推進

○学習内容の定着を図り、習得した知識や技能を次の学習や生活に生かすため、ノートやワークシート等の工夫や活用をする。

○地域の環境や人材を積極的に取り入れたり（出前授業）、授業の中に体験的な活動や観察・実験・発表や討論等の多様な学習形態を意図的に取り入れたりすることにより、児童相互が教え合い、高め合える学習を推進する。

○学年内の交換授業や教科担任制を積極的に行う。

#### ② 少人数指導の充実

○算数科を中心に、個に応じたきめ細かな指導の工夫に努め、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

○日本語教室での個に応じた指導を行う。

#### ③ 学校図書館を活用した指導の充実

○学校図書館の活用により読書習慣の育成を図り、本好きな子供を育て、豊かな情操を養う。（読書週間）  
また、各教科の指導において、調べ学習等で「学校図書館」を計画的・積極的に活用する。【市川市重点項目】言語能力の育成

#### ④ 発達の段階に応じた「キャリア教育」を進める。

○体験学習を重視し、すべての教育活動を通じてキャリア意識を育てる。

#### ⑤ 家庭学習の習慣化

○学年共通で計画的な宿題等に取り組むこと等により、家庭学習の習慣化を図る。

#### ⑥ 資質能力の向上を図る研究・研修の充実

○校内研究を柱に、初若年層研修を計画的に行う。日常的にお互いが参観し合う（相互授業参観）ことにより、学校全体の指導力の向上を図る。

### (2) 豊かな心

○学級経営を充実させ、互いに認め合い・助け合い・高めあう学級づくりを行う。

○子供たちが安心できる、所属感や自己有用感を感じられる場所をつくる。教職員主導の「居場所づくり」、子供たちが主体的に取り組む活動を通して、自らが絆を感じ取り、紡いでいく「絆づくり」の場と機会を設定する。子供が主役、教職員は、黒子の役目。

○道徳の授業を充実させるとともに、学校教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。

○あいさつの大切さを理解できるよう教職員が手本となり、「自分から進んで元気な声で心のこもった気持ちのよいあいさつのできる子供」を学校全体の様々な場面を通して育成する。

（あいさつ運動）

○子供の発達段階を理解し、子供と子供、子供と教師の豊かな人間関係づくりを進める。

○縦割り活動による異学年交流や地域の方々との異世代交流（学校支援実践講座等）を通して、コミュニケーション能力を育成し、多様性を尊重し、思いやりのある児童を育てる。

○児童理解・生徒指導部会等を活用して職員間で情報共有し、養護教諭、SC、みらいサポーターと連携し、支援体制を整える。（スペシャルサポートルーム・ゆとろぎ教室の活用）

#### 【市川市重点項目】多様な教育的ニーズに対応する学びの推進

○家庭、地域、関係機関との連携を密にし、地域ぐるみの生徒指導の推進に努める。

○外部講師の招聘・活用や日常の学級指導を通し、人権意識を高め、命の尊さ・いじめ防止等についての認識を高めるとともに、自他の存在を尊重する意識をはぐくむ。

○「幸小学校いじめ防止基本方針」にのっとり、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを発見した際には、「いじめ防止対策委員会」が中心になり、速やかに組織として対応する。

### (3) 健やかな体

○ヘルシースクール委員会を中心に、基本的生活習慣の確立・体力向上・食に関する指導の充実を図る。

#### 【市川市重点項目】児童生徒の体力の向上

○子供の危険予知・回避能力を育成し、校内におけるケガの発生を減らす。（避難訓練の工夫・充実）

○日常の健康観察を大切に、一人一人の子供の健康管理と適切な指導に努める。

○「げんきっ子カード」等を活用し、家庭への啓発等を通して、基本的生活習慣の確立や生活リズムの改善を図る。

○業間休み・ロング昼休み等、外遊びの時間を確保するとともに、教科体育の内容の工夫及び充実を図る。また、スポーツ委員会のイベントを実施する。

○栄養教諭と連携し、食に関する指導の充実に努める。

○学校給食の安全管理を徹底するとともに、食物アレルギーに対する適切な対応及び家庭との緊密な連携を図る。

○子供の登下校時の安全を確保するため、学校では防犯教室、交通安全教室の開催、通学路の点検を実施するとともに、家庭、地域社会、ボランティア等の協力を得て交通安全指導及び防犯パトロールを積極的に推進する。

### (4) 信頼される学校づくり

○学校だより、各種たより、ホームページ、連絡メール等の活用により、学校からの情報発信を積極的に行い、家庭・地域との教育情報の共有化を推進する。

○オープンスクール、保護者懇談会、個人面談等を活用して、家庭や地域との連携を図るとともに、協働体制を推進していく。

○保護者による学校評価アンケートを実施し、その集計結果と分析及び今後の対応について公表するとともに、学校運営協議会による学校関係者評価を受け、学校運営の改善に生かす。

○学校運営協議会の充実を図り、地域や第三者の声が反映された学校運営を進める。

○学童保育クラブ、放課後子ども教室等との緊密な連携を図り、児童理解を深めることにより、日頃の児童への指導に生かす。

○児童の安全を守るよう、必要に応じて、生活支援・家庭支援・医療・警察等の各専門機関と連携して対応する。

○各種避難訓練を計画的に行う。災害時等の危機管理マニュアルを見直し、改善を図り、市川市地域防災課等と連携を図りながら地域との協力体制を構築する。また、震度5弱以上の大規模災害時には、本校が小学校避難拠点・避難場所となる計画になっていることを全職員並びに保護者・地域の方々に周知する。

○常に高い危機意識を持ち、報告、連絡、相談（ほうれんそう）を重視してリスク管理を行い、学校事故や不祥事を防ぐ。

### (5) 中学校ブロック内の連携

○幼・保・小・中の連携・協働により、学びの連続性を強化する。

○中学校ブロックで共に育てる取り組みを実施する。（オレンジリボンキャンペーン など）

○ブロック合同の学校運営協議会を実施する。（地域との連携）